

明治大学(学部入学定員:6,520人)

[取組学部・研究科等: ○政治経済学部(1,030人)]

【構想の目的・育成するグローバル人材像】

世界の政治・経済のリーダーを輩出し、学内においても国際化を先導してきた政治経済学部が、『「強い個」をベースとした”Empowered Public”創成人材』を育成、輩出し、明治大学が、自立した個を有しつつも他者への理解・共感を備え、高い専門能力とコミュニケーション能力により世界に貢献する、「グローバル公共人材」育成の拠点となることを目指すものである。

【構想の概要】

既存の取組拡充に加えて、海外大学とのダブル・ディグリープログラムを新設するなど、海外大学との連携を強化し、短期・長期の留学プログラムの質的・量的な強化を図る。学生主体の「プロジェクト型実習」を、海外を中心として、組織的に実施する。

■ 教育課程の国際通用性の向上

○ 教育課程の国際通用性の向上のための取組

米国のノースイースタン大学、デューク大学及びカリフォルニア大学バークレー校等、海外有力大学との関係強化を図ると同時に、カリキュラム改革(ナンバリング等)を伴う海外留学プログラムの質的な高度化(ダブルディグリーを含む)を図る。

○ 戦略的な国内外への教育情報の発信

グローバル30大学の情報発信に関するテンプレートにより行っている基礎的な情報の発信(G30web“JUMP”で公表)を、より一層強化し、戦略的な情報発信を展開する。

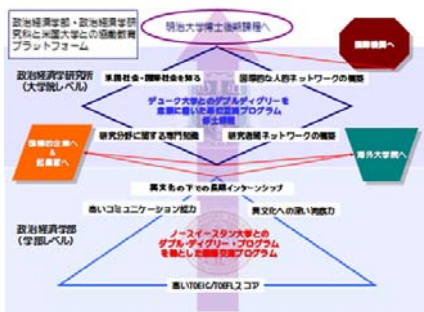
○ 外部評価体制の確立および事務体制のグローバル化

米国大学教学担当者を含む外部評価体制を確立する。TOEICスコア800点相当の英語力を有する専任職員増加(目標割合10%は、学内各部署に各1名配置可能な数値)。



(ノースイースタン大学への留学プログラムの様子)

■ グローバル人材として求められる能力の育成



(米国大学との協働教育プラットフォーム)

○ 「インターンシップを組み込んだダブル・ディグリー」の実験等

ノースイースタン大学の長期インターンシップと学士・大学院教育を組み合わせた“Experimental Education”を活用したダブル・ディグリープログラムを開発する。

○ 「グローバル・プロジェクト」の新設

演習(ゼミ)での主体的な課題解決型の研究・調査活動に、海外フィールドワークや国際機関等での公共政策インターンシップ等を取り入れた実習を開発する。

○ 実践的な英語力強化のためのプログラム

既存の「海外留学準備講座」や「ACE」など、英語力を鍛えるプログラムに加えて、IELTS講座や海外機関と連携したカラン・メソッドを活用したプログラムを新設する。

■ 語学力を向上させるための入学時から卒業時までの一体的な取組

○ 入試における中等教育段階までの外国語力・留学経験等の適切な評価

現在、実施している帰国生特別入学試験に加え、英語外部試験(TOEIC, TOEFL, IELTS等)のスコアを活用した入学試験等、英語能力の高い高校生をターゲットとした特別入試の導入を視野に入れ、将来のダブルディグリー・プログラム実施に備える。

○ 効果的な語学教育及び教育体制

毎年実施しているTOEIC試験を通じて、定期的に目標スコア達成状況をチェックし、習熟度別指導を徹底する。学生自身は大学が提供するeポートフォリオを通じて、自らの学びを検証し自らの目標に向かって効果的な学習を行うことができる。

■ 教員のグローバル教育力の向上

○ 教育体制のグローバル化

今後も国際公募を基本とし、外国人教員採用を促進する。また、海外トップスクールの教員を客員教員として招聘し、集中講義を行う『トップスクールセミナー』を拡充することで、海外教育経験を持つ教員の配置や教育体制のグローバル化を推進する。

○ グローバル教育力向上のための取組

米国ネブラスカ大学へ本学教員を派遣して実施している、英語で行う授業科目の教授法についての国際FDを継続実施する他、ワークショップやシンポジウム等の海外協定校との共同開催を推進し、英語で授業を実施し、演習に参画する機会を増やす。

■ 日本人学生の留学を促進するための環境整備

○ 動機付けや留学を促進するための取組

国際キャリア・カウンセラーを配置し、留学事前準備、学習計画の指導等、組織的な留学支援を推進する。また、個別相談を通じて、短期・長期留学、海外インターンシップ等、多様な海外学習体験のメニューを個々の学生のニーズに合わせて提供する。

○ 留学中から帰国後にわたるサポート体制

前述の国際キャリア・カウンセラーによる、留学事前準備に加えて、海外留学中についても、派遣学生のメンタル・健康管理についてのカウンセリングをオンラインで行う。また、外部機関と連携し、現行の緊急時・災害時の24時間支援体制を強化する。

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力

卒業・修了時に学生が修得すべき具体的能力は、次のような能力である。

■異文化に対する洞察力:グローバル社会の中で異なる文化・背景を持った他者の理解力

「異文化に対する洞察力」とは、グローバル社会の中で異なる文化・背景を持った他者への感受性、さらにはその前提としての自身が所属する文化に対する理解力である。政治経済学部は、伝統的に国内外の社会科学の研究・教育が盛んであり、「グローバル公共人材」の大前提である他者への洞察力を鍛えることを目標としてきた。既存科目の拡充、グローバル・プロジェクト(グローバル・フィールドワーク、グローバル・ボランティア等)への参加を通じて、本能力を養成する。

■使命感と倫理観:強い「個」を基調にしつつ「個」に閉じこもらず「個」をつなぐ能力

「使命感と倫理観」とは、本学の創立の理念である強い「個」を基調にし、経済・社会の変化が激しい社会の下で、ともすればばらばらになって原子化しやすい「個」をつなぎ、より強靱な「公共」空間、すなわち“Empowered Public”の創成を先導して促進する能力のことである。本学、本学部全体の教育プログラムが共有する能力・価値観であり、教学の理念としてあらためて位置づけるとともに、頂上科目であるトップスクールセミナーを通じて同能力の涵養を図る。

■実践的な専門知識:課題解決・現場志向の専門知識

「実践的な専門知識」とは、課題解決・現場志向の専門知識であり、政治学科、経済学科、地域行政学科、それぞれの学科で展開される専門科目と、専門演習(ゼミ)と連動したグローバル・インターンシップ、グローバル・ボランティア、グローバル・フィールドワークなどのプロジェクト演習を通じて実践的な知識を体感させることにより、グローバル社会の課題解決に資するような専門的な能力を育てる。

■語学力・能動的コミュニケーション能力:他者の意見を理解し自分の考えを効果的に伝える能力

「語学力・能動的コミュニケーション能力」は、単なる語学力だけではなく、他者の意見を理解し自分の考えを効果的に伝える能力として、アカデミック・ライティング、プレゼンテーション、ディスカッションのスキルをそれぞれ集中的なトレーニングによって向上させる。リスニング力、読解力では、TOEICではおおよそ800点以上のスコアを有するレベルの能力を身に着けさせる。(2016年に100名を目標)

本構想において実現する達成目標

全学		2011	2012	2013	2014	2015	2016
外国語カスタンダードを満たす学生数				70人	80人	90人	100人
うち海外留学未経験者数 (A)				50人	56人	63人	70人
海外留学経験者数 (B)		50人	60人	70人	80人	90人	100人
卒業[予定]者数 (C)		1,167人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人
比率 ((A+B)/C)				12.0%	13.6%	15.3%	17.0%
政治経済学部	卒業時の外国語カスタンダード	TOEIC 800		70人(50)	80人(56)	90人(63)	100人(70)
	海外留学経験者数	50人	60人	70人	80人	90人	100人
	3カ月未満	44人	50人	55人	60人	65人	65人
	3カ月～1年	0人	4人	9人	14人	19人	29人
	1年超	6人	6人	6人	6人	6人	6人
卒業[予定]者数		1,167人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人	1,000人

※1)「外国語カスタンダードを満たす学生数」の学部ごとの記入欄の()内は、外国語カスタンダードを満たす学生数のうち「単位取得を伴う海外留学未経験」の学生数を示す。

※2)上記の「海外留学経験者数」は、いずれも単位取得を伴う海外留学経験者数であり、単位取得を伴わない海外留学経験者は含まない。